

# Unisys ClearPath® CS4200D Series CS4250D/CS4270D Server

**UNISYS**



CS4250D/CS4270Dは、日本ユニシスの次世代サーバ・アーキテクチャに基づき開発されたOS2200のミッションクリティカルアプリケーションをインテル®プロセッサ上で完全互換で稼働させることができる新しい発想の従量制サーバです。移行時もコンパイルなどの面倒な作業は一切不要。OS2200の貴重なアプリケーション資産・データ資産をそのまま活かしながら、非常に優れた信頼性・安全性・性能、更には変化への俊敏な対応力を手に入れることができます。

# OS2200のミッションクリティカルアプリケーションをインテル® プロセッサでそのまま稼働。メータリング技術を採用し、セキュアJava、Web連携エンジンを標準搭載した次世代型サーバ、エントリモデルCS4250D/CS4270D登場



## CS4250D/CS4270Dの特長

CS4250D/CS4270Dは、インテルプロセッサによるOS2200アプリケーションの稼働を実現する次世代サーバ・アーキテクチャを採用した最新モデルです。CMOSベースサーバとの間で、OS2200アプリケーションのコードおよびデータの互換性がファームウェアレベルで完全保証されています。そのため、お客様はアプリケーションの再コンパイルや再リンクを行うことなく、速やかに移行することが可能です。また、CS4250D/CS4270Dでは米国ユニシス社が開発したメータリング技術を採用し、OS2200サーバに従量制の価格体系を導入するとともに、エントリクラスに適した性能と構成にパッケージ化しました。これにより、お客様は新規投資を最小限に抑えながら、システム・リソースを最大限に有効活用することができます。

CS4250D/CS4270Dは上位機種CS4290Dの機能・構成をコンパクトにパッケージ化したエントリ・システム向けの従量制モデルです。外部連携エンジンの標準提供、新しいI/Oサブシステムの提供、サーバ群の統合など優れた特徴の多くはCS4290Dと同様に提供されます。

### メータリング技術を採用した従量制サーバ

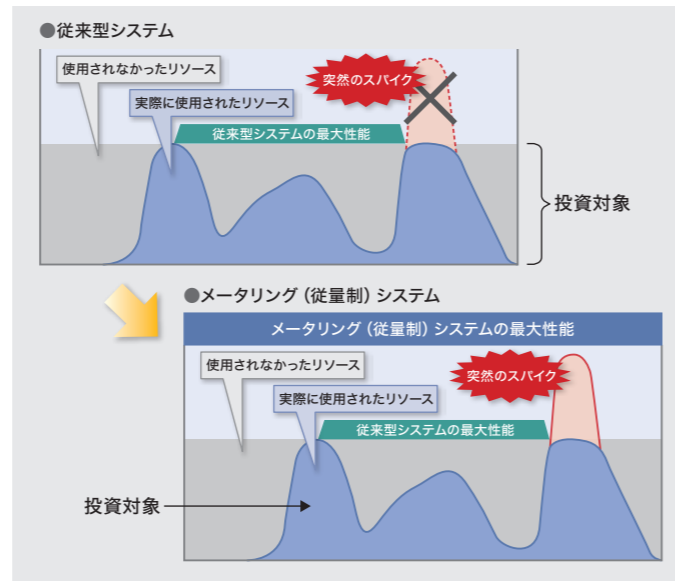
米国ユニシス社が開発したメータリング技術により、OS2200 IP (Instruction Processor) リソースの使用量を計測・集計・通知し、メータリング(従量制)システムの基盤を支えます。

#### ●ユーティリティ・コンピューティングに対応

CS4250D/CS4270Dでは、OS2200 IP性能を必要ときに必要なだけ、自由にお使いいただけます。実際の使用量に応じて課金するシステムなので、従来型のシステムで提供中のキャパシティ・オン・デマンド(COD)に比べて、より弾力的なユーティリティ・コンピューティングに対応し、一段とパワフルで自由度が高いシステム・リソースの有効活用を可能にします。

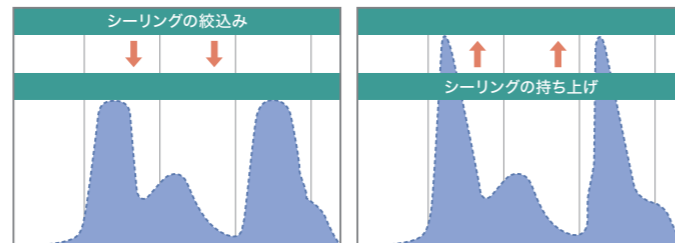
#### ●実稼働に合わせた効率的なシステム投資を実現

CS4250D/CS4270Dでは、実際の使用量に応じて、事前にご契約いただいた性能量からの引き落としや使用料金の精算を行います。短期間または一時的な繁忙期(スパイク)に備えて高価なシステムを購入するのではなく、業務の繁忙とITコストを連動させ、実稼働に合わせた効率的な投資でシステムを使用することが可能です。



#### ●エントリクラスの最大性能を標準装備

CS4250D/CS4270Dでは、エントリクラスに必要なとされる十分なシステム性能が使用可能なOS2200 IPを標準装備し、プロセッサ負荷の重いアプリケーションやパッチ処理もストレスを感じさせることなく動作します。実効的な最大性能(シーリング)を動的に変更して、予期しないリソース使用を回避したり、処理時間や所要コストを調節したりすることもできます。



#### ●簡潔でわかりやすいプリペイド方式を採用

あらかじめ所定の期間の予想使用量を一括購入するプリペイド方式の採用により、従量制のシステムでありながら必要なコストを把握しやすく、事前の予算確保や初期投資の平準化が可能です。また、使用量の計測・集計・通知はシステムが自動的に行うので、複雑な運用・管理は不要です。事前にご契約いただいた性能量の消費後や有効期間の満了後も、性能量の追加購入または月次の実績精算により、煩雑な操作や手続きなしにシステムを継続して使用できます。

### 従来機と完全互換のエントリモデルを提供

CS4250D/CS4270Dは、インテルプロセッサ・システムの専用ファームウェア上に従来のCMOS機と完全互換のOS2200 IPを最大2個まで実行可能です。単一のパーティションを基本構成とし、以下のようにパッケージ化したエントリモデルとして提供します。

●CS4250D: 最大システム性能は60 IPC<sup>(注1)</sup>で、必要最小限のI/Oハードウェア構成をサポート

●CS4270D: 最大システム性能は180 IPC<sup>(注1)</sup>で、一定の拡張性を持ったI/Oハードウェア構成をサポート

(注1) IPC (Instruction Processing Capacity) : IP性能を表わす日本ユニシスの独自性能単位です。

### OS2200の機能を拡張するサーバ群を仮想化技術で統合

CS4200Dシリーズでは、OS2200の機能を拡張する外部連携専用エンジンサーバ群を、米国ユニシスが開発したサーバ仮想化技術であるs-Par™を用いて1つのインテルサーバ上に統合しました。これにより、複数サーバハードウェアの導入の手間や個別のメンテナンスに伴う複雑さを無くし、管理コストを削減することが可能になりました。

### 新しいI/Oサブシステムの採用

CMOSプロセッサ搭載大型システムと同じI/OサブシステムであるPCIOP-Mを採用しました。このことによりCS4100Dシリーズから更にI/Oパフォーマンス、I/O堅牢性が向上しました。

### 外部連携専用エンジン2種の標準提供

日本ユニシスは既存アプリケーションを活かしつつ、最新テクノロジーを取り入れる“モダナイゼーション”実践を支援していきます。ClearPathサーバ専用として提供される外部連携専用エンジンはモダナイゼーションのための強力なツールです。CS4250D/CS4270Dにおいても、CS4100Dシリーズではオプション提供であった外部連携専用エンジン2種(ClearPath Portal, Javaプロセッサ)を標準機能としてバンドル提供します。

※Javaプロセッサご使用に際しては追加でライセンスをご購入いただく必要があります。

### バックアップとリカバリ

OS2200は万一のシステム障害時に、基幹データをバックアップ、且つリカバリするための統合的なソリューションとしてIRU (Integrated Recovery Utility) を基本ソフトウェア群のひとつとして標準提供します。更に基幹システムの絶対的な要件である無停止、冗長性を追求、そのための高可用性ソリューションを利用することも可能です。

### セキュリティ

OS2200は標準機能として提供するシステム・アクセス制御に加えて、長年に亘って培われたメインフレームのセキュリティ技術をベースとして各種ソリューションを提供し、近年増加しつつあるインターネット経由の各種不正アクセスなど情報漏洩に対する防止策を強力に支援します。

#### ●セキュリティ・オプション

OS2200の基本セキュリティ機能を更に強化する拡張機能を提供します。セキュリティ・オプションを追加することでより厳密なファイル・アクセス管理が可能になります。

#### ●OS2200上のデータの暗号化: CIPHIS

DES、3DESそしてAESに対応する暗号化アルゴリズムに基づき、OS2200上のデータにアクセスするための暗号化ユーティリティです。

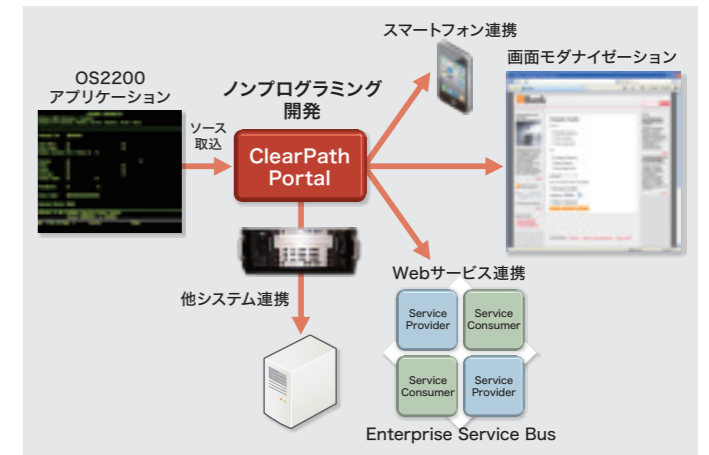
### 外部連携専用エンジン

外部連携専用エンジンとして、Web/モバイル連携専用のClearPath Portalと、セキュアなJava (J2EE) 環境を搭載するJavaプロセッサを提供します。

#### ●ClearPath Portal: Web/モバイル連携、モダナイゼーション

既存システムのモダナイゼーションを支援するWeb連携専用エンジンです。専用端末からしかアクセスできなかったOS2200アプリケーションを、付属のDeveloperを用いてノンプログラミングでWebブラウザ、

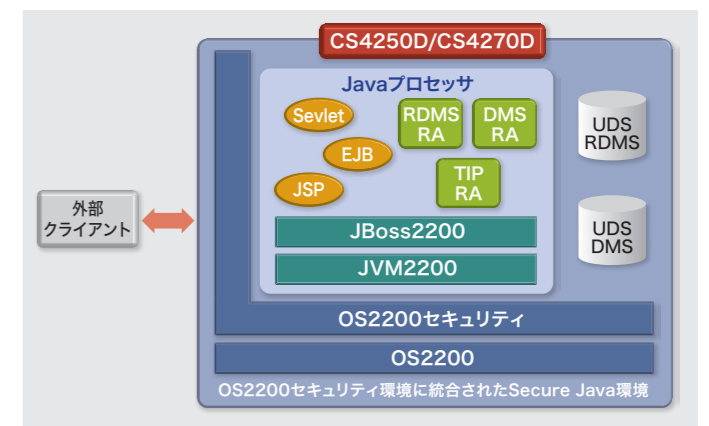
モバイル端末、スマートフォン、Webサービスと連携させることができます。Developerで作成したWebアプリケーションは、Web連携用にセキュリティを強化したClearPath Portalで実行されます。



#### ●Javaプロセッサ: セキュアなOS2200 Java J2EE環境

24時間365日対応の高可用性を求められるCS4250D/CS4270Dでは、堅固なセキュリティ、トランザクション処理能力、高信頼性、優れた統合リカバリ機能の下で、OS2200Java (JVM) 機能、オープン・ソースの代表的なJ2EEアプリケーション・サーバであるJBoss® Application ServerがJavaプロセッサ (Java専用外部連携専用エンジン) で提供されます。

Java™アプリケーションはRA (Resource Adaptor) を利用することで2200上で稼働するトランザクション処理プログラムや、UDS RDMS1100やUDS DMS1100のデータにアクセス可能となり、CS4250D/CS4270D上で稼働する安全、且つ安定したJava/JBoss環境経由で既存2200資産を外部システムと連携させることができます。



(\*) 2013年6月提供開始予定です。

### 基幹データベースからのデータ抽出

GUIベースのRADツールDataExtractor/IXによりDMS1100上の基幹系データをタイムリー且つ、効率的にRDBMS (ORACLE、Microsoft SQL Server) に抽出することができます。

- ・DataExtractor/IX: DMSデータを抽出
  - ・DataExtractor/IX (ファイル抽出): 各種COBOLファイル(\*)を簡単に抽出
- (\*) シンボリック・エレメント、SDFファイル、順編成ファイル、MSAMファイル



■CS4250D/CS4270Dのシステム仕様

	CS4270D	CS4250D	備考
稼働パーティション数	1		1パーティション当たりSPMセルおよびBSMセルが各1台必要

1パーティション当たりの仕様

SPM <sup>注1)</sup> セル	最小構成	最大構成	増設単位	最小構成	最大構成	増設単位	
SPMセル	1	1	-	1	1	-	
プロセッサ	Intel® Xeon®プロセッサ E5-2690 (2.9GHz) 8コア プロセッサ×2			Intel® Xeon®プロセッサ E5-2690 (2.9GHz) 8コア プロセッサ×2			OS2200用IPはインテル® プロセッサ上で稼働
Operating System	OS2200			OS2200			
OS2200 IP (IP: Instruction Processor) 稼働数	1	2	-	1	2	-	
OS2200 IP実装数	2	2	-	2	2	-	
メモリ (GB)	128	128	-	128	128	-	ミラー構成128GB、ユーザ利用可能領域64GB
プロセッサ性能	180 IPC <sup>注2)</sup>	180 IPC <sup>注2)</sup>	-	60 IPC <sup>注2)</sup>	60 IPC <sup>注2)</sup>	-	
契約単位 (月当たり平均性能)	10 IPC <sup>注2)</sup>	90 IPC <sup>注2)</sup>	1	10 IPC <sup>注2)</sup>	40 IPC <sup>注2)</sup>	1	
GB Ethernet (4 I/F)	3	6	1	4	4	-	PCI ExpressスロットおよびSPMセル上にオンボードで搭載
BSM <sup>注3)</sup> セル	最小構成	最大構成	増設単位				
BSMセル	1	1	-				
プロセッサ	Intel® Xeon®プロセッサ E5-2680 (2.7GHz) 8コア プロセッサ×2						
Operating System <sup>注4)</sup>	Windows® 2008 R2 EE SP1/ SUSE® Linux Enterprise Server 11 SP1						
メモリ (GB)		96	96	-	ミラー構成96GB、ユーザ利用可能領域48GB		
PCI Expressスロット		7	7	-			
GB Ethernet (4 I/F)		5	5	-	PCI ExpressスロットおよびBSMセル上にオンボードで搭載		
外部連携専用エンジン - ClearPath Portal		0	1	1			
外部連携専用エンジン - Javaプロセッサ		0	2	1			
I/O Manager : PCI Expressスロットへ接続	最小構成	最大構成	増設単位				
I/O Manager	1	1	-				
SIOP <sup>注5)</sup>	2	2	-				
HBA : SIOPへ接続	最小構成	最大構成	増設単位	最小構成	最大構成	増設単位	
8Gb Fibre (2 I/F)	2	12*	1	2	2	-	
4Gb Fibre (2 I/F)	0	12*	1	2	2	-	
	※8Gb Fibre、4Gb Fibreの合計で最大12						
システム・キャビネット	最小構成	最大構成	増設単位				
	1	1	-				
Auxiliary・キャビネット	最小構成	最大構成	増設単位				
	0	0	-				
エネルギー消費効率 <sup>注6)</sup> (2012年度基準W/GTOPS)		区分	効率				
		L	2.1				

注1) SPM (SAIL Processing Module) : OS2200 IPが稼働するインテルベース・サーバモジュール  
 注2) IPC (Instruction Processing Capacity) : IP性能を表す日本ユニシスの独自性能指標  
 注3) BSM (Bundled Specialty engine Module) : 外部連携専用エンジンが稼働するインテルベース・サーバモジュール  
 注4) Operating Systemは米国ユニシス社が開発した仮想化技術s-Par™上でBSMをソフトウェア分割して稼働  
 注5) SIOP (Storage Input/Output Processor) : ストレージ機器接続のための入出力プロセッサ  
 注6) 省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したもの

CS4250D/CS4270D Server



正面

背面

**安全に関するご注意** ●正しく安全にお使いいただくため、ご利用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

※ClearPathおよびs-Parは、米国ユニシス・コーポレーションの登録商標です。※Intel、インテルおよびXeonは、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
 ※Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。※Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。  
 ※SUSEは、米国Novell, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。※JBossは、米国Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
 ※Javaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。※その他記載されている製品名、会社名等は各社の登録商標または商標です。

日本ユニシス株式会社

●お問い合わせ先

本社 東京都江東区豊洲1-1-1 〒135-8560

電話03-5546-4111(大代表)

http://www.unisys.co.jp/

Copyright ©2013 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

本リーフレットに掲載されている文章、写真、イラスト、画像およびこれらを組み合わせた編集物は著作権法による保護を受けており、これらの著作権は、日本ユニシス株式会社に帰属するほか、第三者の著作権によるものである場合は当該第三者に帰属しています。改良のため予告なしに性能・仕様を変更することがあります。また商品の色は印刷の都合により多少異なることがあります。